

# 農報

## 水稻



### 5月の水稻情報



#### 水稻

吉田 義文  
指導販売部  
0969-22-1105

#### 中干し後の水管理

中干し終了後（平年5月末日）から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

#### 穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけましょう。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚の圃場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測りません。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

**穂肥の目安**（出穂前25日前後----- 幼穂長1.0～1.5ミリ）  
稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	20kg	15kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板（カラースケール）を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

#### 病害虫防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、圃場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心掛けるとともに、栽培管理台帳への記入をお願いします。

## 花卉



### あわ栽培について



#### 花卉

中原 英幸  
下島富農指導センター  
080-1729-1629

JAあまくさ管内で、夏場の品目として出荷されています。見た目は猫じゃらしが巨大化したような感じで、緑色の清涼感のある品目です。市場へは夏場の商材として取引しています。栽培的にはさほど難しくありません。直売所ではなく市場向けの出荷としての品目です。

作型/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
5月出荷			○									
6月出荷				○								
7月出荷					○							
8月出荷						○						
9月出荷							○					

#### < 品種 >

種苗会社：福花園 1d1詰・1袋/約24,000粒

①極早生大房あわ（早出しから遅出しまで可能）（約2a分程度）

②紅くじゃく（穂が赤く染まる）

③八ツ房あわ（花穂の先端が分かれる珍しい品種）

※JAあまくさでは、①の品種が100%出荷で他品種は栽培も出荷もありません。

#### < 適地性 >

日当たり、風通しが良く、排水良好な圃場が適します。

#### < 元肥 >

堆肥を1a当り土作りに200kg投入します。基肥は窒素、リン酸、加里を各成分で1a当り約0.8～1.4kg程度施用します。

#### < 定植及び管理 >

畝幅75～80cmに株間15cm、条間15cmの4条で直播します。播種量は1ヶ所に5粒播きとし、播種後、軽

く覆土します。覆土後は十分灌水します。フラワーネットは1段とし、15cmの5つ目とします。フラワーネットの目に播種するかたちとなります。中央の目は灌水チューブを設置します。

発芽まで4～7日かかりますので、発芽するまで土壌が乾かないよう管理します。

発芽後は土壌が乾いたら灌水します。

ある程度、芽が大きくなったら3本仕立てになるよう間引きします。

密植しすぎると茎が細くなり、ボリューム不足の原因となるので注意します。

#### < 病害虫 >

病気についてはさほどありませんが、夏場の栽培ですので害虫の防除は定期的な早めに行います。

#### < 栽培注意点 >

密植栽培はボリューム不足となりますので密植栽培は避けてください。

灌水不足は草丈が短くなるので十分灌水ください。

	階級	草丈	1ヶ所当り重量(kg)	結束	箱詰本数	花	茎	草姿	病害虫
等級	2L	90cm	4kg以上	10本	100本	切り前適	曲がりがない	バランス良い	認めないもの
	L	80cm	3kg以上	10本	100本	前適	りがな	好でボ	
	M	70cm	2kg以上	10本	100本	正な	いも	リウムある	
	S	60cm	1kg以上	10本	100本	もの	の	もの	
収穫	切り前は、穂の長さが7cm程度。								
調整	下葉は除去は全体の1/3の葉を取り除く。葉の長さは、10cm程度に切りそろえる。穂部分の葉は、穂が半分以上見えるように切り揃える。								
選別	出荷規格に従って良心的な選別に努める。規格とおりにない場合、等級格下げとする。								
結束	よく揃ったものを10本選び、穂の先端部分をそろえる。								
水揚	しおれないように水揚げを行う。								





## 春インゲン今後の管理



野菜

小林 優介  
下島農指導センター  
080-1729-1635

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

## 温度管理

15～25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

## 灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせませす。草勢を見ながら行い、後半は液肥で行います。

例) 穴肥 アサヒエース  
液肥 トミー液肥ブラック等(500倍)  
葉面散布 メリット青(500倍)

## 摘葉

摘葉は収穫しながら行い、老化葉・病葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

## 病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、スリップス等

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
アフターム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
プレオフフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	ハスモンヨトウ、ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
パダンSG水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ

## 灰色カビ病

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル20	1000～1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病

# 當情



## 5月の柑橘園管理



果樹

白石 一斗  
下島農指導センター  
080-1729-1633

5月になりますと新梢も出揃い始めいよいよ開花の時期となります。暖かい季節に入りますので、みかんの生育も日に日に進んでいきます。時期ごとにポイントとなる管理を記していますので園の状況をよく観察し、適期管理に努めましょう。

## 1. 病害虫防除

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈回数	備考
上旬～中旬 (開花期間)	訪花害虫	モスピランSL液剤	4,000倍	
	灰色カビ病	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	
中旬～下旬 (開花盛期～落弁期)	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	混用
	灰色カビ病	フロンサイドSC	2,000倍	
	そうか病 ホコリダニ			

※養蜂が行われている地区では、周辺への飛散に注意して下さい。  
※フロンサイドSCにかぶれやすい体質の方は、灰色カビ病の防除でファンタジスタ顆粒水和剤(4,000倍)を使用して下さい。  
※花のバラつきがある場合は、ホコリダニの防除でアブロードエースフロアブル(1,000倍)を使用して下さい。

## 2. 葉面散布

発芽～開花期は前年の貯蔵養分で活動します。新梢の充実と養分補給の為、チッ素主体の葉面散布を行いましょ。また、展葉後は早期に緑化を促進させる為、マグネシウムの葉面散布を行いましょ。

時期	薬剤名	希釈回数	備考
新梢伸長期 ～開花期	尿素 アミノジューシー N14	500倍	樹勢維持
	神協スピリッツ	1,000倍	
	ジューシーカル	800倍	
展葉期 (5月中旬頃)	葉面マグ	200倍	緑化促進

## 3. 着果対策(不知火、清見、中生・普通温州)

ジベレリンの散布・・・ジベレリンを散布する事により、生理落果防止につながり着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布をしましょ。下の表で規定濃度になりますので、開花始めから満開10日後辺りに散布をして下さい。また、尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期・・・開花始め～満開10日後

○ジベレリン希釈表(25ppm液を作る場合)

ジベレリン液剤 40mlの場合	水 8Lに1本	尿素を加用する場合尿素を16g加用する
ジベレリン液剤 100mlの場合	水20Lに1本	尿素を加用する場合尿素を40g加用する

## 4. せん定の実施(蕾が小豆～大豆大の頃)

冬期の剪定を控えていた所などでは、必要に応じて実施して下さい。特に樹冠内が込みあっている所では間引きを行い、樹冠内に光が入るようにしましょ。剪定量については、軽めにお願いましょ。